

第19回電気絶縁材料シンポジウム 開催にあたって

絶縁材料技術委員会

委員長 田中 祀 捷

第1回電気絶縁材料シンポジウム開催に当り、電気材料技術委員会委員長であった鳳誠三郎教授は『要はこのようなシンポジウムが定期的且つ長期に渉って実現するように努力して載き度いと希望致します』と述べておられます。まさにその期待にこたえ、今回は第19回を迎えることになりました。このような長期の継続性ばかりでなく、論文数も多くなり、その内容もかなり充実し高度化してきていることはいまでもありません。これはひとえに本分野関係の皆様や運営に当ってこられた諸先輩の皆様のご努力の賜と深く感謝する次第です。しかし時代は大きく変わってきています。それに対処するためには築かれた伝統を重んじながら新たな視点を求めて展開をはからねばならないと思います。

さて、第19回シンポジウムは招待講演論文2件、一般講演論文69件で行われることになりました。招待講演には、合衆国コネティカット大学J. Tanaka教授と連合王国ERAテクノロジー社N. Parkman博士を招聘することができました。Tanaka教授は、電気絶縁の化学的側面の権威者で、現在米国IEEE電気絶縁部門の部会長として活躍しておられます。Parkman博士は固体絶縁の権威者で、現在CIGRE SC15(絶縁材料)の委員長として国際的に活躍しておられます。そのため[C]セッションを設け、博士との情報交換も含めて英語で講演することになりました。

一般講演では外国から2名の参加者が予定され、本シンポジウムもまさに国際化の中に入ってきたといえます。一般講演は原則として、パラレル・セッションとなり多少のご不便をかけますが、聴講には有意義になるよう工夫していただくよう希望いたします。ポスター・セッションも人気が高く、今回は19件を選定いたしました。

このように絶縁材料技術委員会は、皆様に討論のフォーラムとしてのシンポジウムを提供していますが、その他

- 調査専門委員会活動
- 絶縁材料研究会の開催
- 誘電・絶縁材料に関する若手セミナーの開催
- 米国IEEE EIマガジンへの「日本のEIニュース」の寄稿
- 電気学会全国大会や、関連学会連合大会のシンポジウム企画

等種々の活動を行い、絶縁材料分野の展開をはかる努力をしています。新しい企画として新たな視点を求め時代を先どりするためTF(タスクフォース)を設置し、新しい研究の方向性を探る試みを始めました。

以下にTF名、昭和61年活動の調査専門委員会名および昭和61年開催の研究会テーマを記します。

<TF>

- | | |
|-----|---------------|
| TF0 | 共通問題 |
| TF1 | 基礎現象と計測・センサ技術 |
| TF2 | 誘電絶縁材料 |
| TF3 | 極低温絶縁 |
| TF4 | 機器絶縁 |

- TF5 ケーブル絶縁
- TF6 コンデンサ
- TF7 屋外絶縁
- TF8 エレクトロニクス絶縁

〈調査専門委員会〉(昭和61年活動) ()内は委員長名

- 絶縁材料耐トラッキング性(能登文敏) 57.4~61.3
- 絶縁材料放射線複合劣化(浜 義昌) 59.4~61.3
- 極低温絶縁技術(河野照哉) 58.10~61.9
- 特別高圧回転機・ケーブル絶縁の劣化診断技術(福田 正) 59.10~62.9
- 電子絶縁材料(日野太郎) 59.10~62.9
- 固体絶縁材料の電気伝導と絶縁破壊(水谷照吉) 61.1~63.12
- 絶縁材料耐熱性短時間試験方法(小沢丈夫) 61.1~63.12
- 耐放射線性誘電・絶縁材料(浜 義昌) 61.4~64.3
- 絶縁材料トリッキング性試験方法(能登文敏) 61.6~64.5

〈絶縁材料研究会〉EIM-86 (昭和61年開催)

- 部分放電劣化(1月21日) No. 1~10
- 国際会議報告(2月18日) No. 11~17
- 添加剤・充填剤の効果(3月18日) No. 18~32
- 絶縁劣化診断技術(5月27日) No. 33~43 [東海支部と共催]
- 有機超薄膜(6月24日) No. 44~51
- トリッキング・トラッキング劣化(7月11日、12日) No. 52~67
[放電研究会と共催]
- 新素材(8月6日) No. 68~81 [関西支部と共催]
- 電気伝導と絶縁破壊(10月21日、22日) [東海支部と共催]
- 極低温電気絶縁(11月25日)
- 耐放射線(仮題)(12月)

第19回シンポジウム開催に当り、種々ご尽力下された絶縁材料技術委員会構成員の氏名は下記の通りです。プログラム委員会が結成され、具体的な企画・活動が行われました。

◎印はプログラム委員長、○印は委員です。心からお礼を申し上げます。(敬称略)

〔幹事〕高田達雄◎ 吉野勝美◎ 小林繁雄(昭和61.5 退任)

〔一号委員〕相原 貢◎ 井上靖雄◎ 伊藤弘孝、糸原福雄◎ 鎌田 謙、
鬼頭国二(昭和61.5 退任)、佐藤公平、佐藤文彦◎ 関井康雄、関口安貞、
内藤克彦、夏目文夫、速水敏幸◎ 福田暉夫◎ 吉田 宏◎

〔二号委員〕小沢丈夫、河野照哉◎ 能登文敏、浜 義昌◎ 日野太郎、福田 正◎
水谷照吉◎

〔幹事補佐〕大木義路◎ 岡本達希◎

また、外国人招待講演者の来日等に関して、種々ご協力を頂いた下記の関連各社に対し厚くお礼を申し上げます。

昭和電線電纜株式会社	住友電気工業株式会社
株式会社 東 芝	株式会社 巴川製紙所
日新電機株式会社	日本ガイシ株式会社
株式会社 日立製作所	日立電線株式会社
藤倉電線株式会社	古河電気工業株式会社
松下産業機器株式会社	三菱電機株式会社
三菱電線工業株式会社	(五十音順)